

【最新】止まらない食品値上げの状況

毎朝テレビでは食材値上の報道がされていますが、いつまで続くのでしょうか。

円安による輸入商材の高騰、ウクライナ侵攻に関わる様々な輸入商材の入手困難な状況や原油高・人件費高騰による物流コストの上昇が引き続き起こっております。

一説によると、これから年末までに12%の食品値上が起こると言われております。

また、値上げでは済まず入手ができないような商品も、今後続々と増えていきそうです。

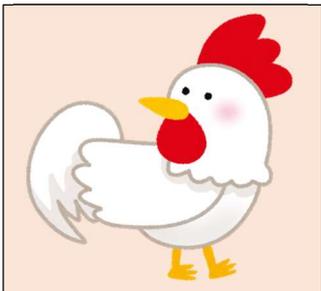
各カテゴリーの現状と今後をまとめましたので、ご利用ください。



【国産鶏】おススメ度◎

輸入鶏相場が大幅に高騰（kg当たり200～400円の値上げ）している為、それに引っ張られるように国産鶏の相場も若干値上げ傾向。

市場での鶏の相場（荷受相場表）は通常よりkg当たり100円上がって800円程度の状況です。モモ肉1枚あたりは20～30円程の値上りになるので、インパクトは少なく今後も使用しやすいと言えます。



【輸入鶏】おススメ度△

引き続き高値維持（kg当たり200～400円の値上げ）。GW以降、国内消費が伸びている中、全世界での消費も伸び、国内在庫量が減っている状況。

現在ブラジル産のモモ肉は、以前のkg300円前後からkg600円でも手に入らない状況となっている。そうすると、モモ肉1枚当たり75円の原価アップとなる為、使用しづらい商品となる。

今後の見通しは非常に残念ですが年内高値維持の見込みです。



【国産豚】おススメ度◎

トウモロコシや麦など穀物飼料の高騰はあるものの大幅な値上げには至っていない。仕入れ価格でkg当たり、バラ肉が100円UPのkg1,100円ほどの上り幅。1人前200gとしても原価20円増でインパクトは少ないので、使いやすい食材です。出荷量予測は前年比100～105%と価格安定の見込みです。

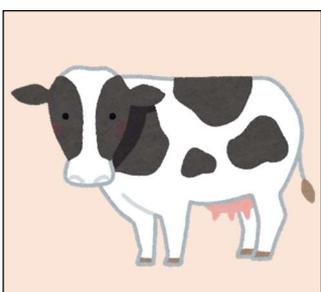
	2019年7月	2022年7月	今後
国産豚バラ	1,000円	→ 1,100円	→1,150円
国産豚肩ロース	1,400円	→ 1,450円	→1,450円
国産豚ロース	1,500円	→ 1,550円	→1,550円



【輸入豚】おススメ度△

日本へのメキシコ産の入荷が増えた為、冷凍バラ肉は相場価格でkg当たり1,000円から100円程下がり900円ほどで推移しています。チルドの三元豚バラはkg当り1,300円と高値で推移の予測。

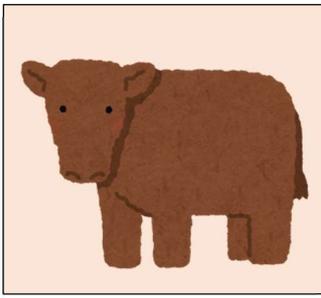
	2019年7月	2022年7月	今後
輸入豚バラ	800円	→ 900円	→ 1050円
輸入豚肩ロース	750円	→ 800円	→ 900円
輸入豚ロース	850円	→ 850円	→ 950円



【国産牛】おススメ度◎

国産豚と同様に穀物飼料の高騰はあるものの、大幅な値上げには至っていない。

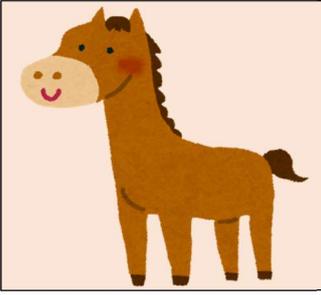
また小腸は夏には価格が下がり1000円/kgを切るが、今年は1,400円でも確保が難しい状況。これ以上の値上がり予測はないが、年末の鍋需要に向けて今から確保の必要あり。



【輸入牛】おススメ度△

中国・韓国買いが落ち着き、一時期の価格高騰、商品が無い状態からは抜けだした。市場価格でショートプレートはキロ当たり 1,200 円から 1,000 円まで下がってきている。例年夏以降、年末に向けて値上がりをしていくので、今後も値上げの見込み。

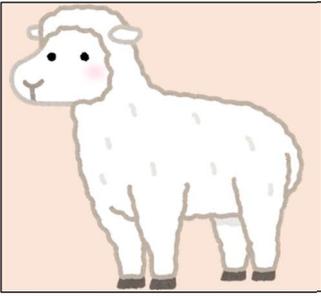
	2019年7月		2022年7月		今後
米国産リブアイ	2,400円	→	3,000円	→	3,200円
カナダ産トップブレードマッスル	1,650円	→	2,200円	→	2,300円
豪州産チャックアイロール	1,300円	→	1,500円	→	1,600円



【馬】おススメ度○

カナダ産は大手メーカーがカナダ政府からの出荷の差し止めが解除になった為、輸入を再開。加工場の人員不足の為、輸入量はコロナ前の半分で現地価格が値上がりしている。市場価格で赤身がキロ当たり 3,500 円から 4,000 円と 500 円アップ。1人前 100g として 50 円のアップになるので若干影響あり。

中国産馬肉もロックダウン解除にはなったが、船の遅れなどで、輸入量は 70%ほど。馬の飼料の値上りと、円安の影響で約 20%の値上げ。輸入量は今後安定していく見込み。国産肥育も飼料代や輸送費高騰の影響で約 10%の値上げ。

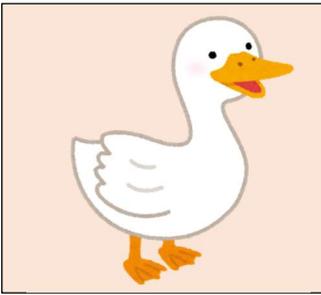


【羊】おススメ度△

2大産地、ニュージーランドとオーストラリアはコロナの影響でワーカー不足に加え、中国・韓国の需要が拡大し、細かな規格を希望する日本は買い負けしている状況。

市場価格でフレンチラムラックがキロ当たり 2,700 円から 3,700 円と 1,000 円近く値上り。ラムチョップ 1本あたり 70 円値上がりで、使用は厳しい状況です。

今後、南半球は冬に入り生産量が少なくなるので、10月頃までは高値で推移する見込み。



【鴨】おススメ度△

昨年末からのハンガリーで起きた鶏インフルエンザで入荷がない状況。フランスでも鳥インフルエンザが発生し入荷がない為、タイ産のコスバの良い合鴨（ムネ、モモ キロ当たり約 1600 円）がおすすめ。

国産は価格高騰の影響はまだ受けていない為、国産にシフトし、京鴨、岩手鴨、あいち鴨などをブランドとしてお客様に訴求し、価格アップを狙うものもあり。



【国産野菜】おススメ度○

猛暑の影響でハーブ・葉物が弱っている状況
ただそれは一時的な出来事、基本的には国産野菜は問題なく納品できている状態

北海道の干ばつで大幅に高騰していたじゃがいもや人参も、8月以降は落ち着く見込み
西瓜は物流コストのインパクトを受けて高値、モモやブドウは比較的安定



【輸入野菜】おススメ度△

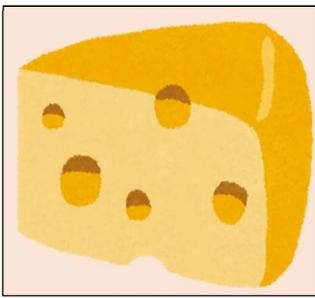
中国産の玉葱、長葱、ニンニクも中国のロックダウンの解除により価格も安定している状態
ヨーロッパの野菜、ベルギーエシャロットやアンディーブ、トレビスは引き続き高値維持。
アボカドはメキシコが主流だが、アメリカのメキシコ産解禁を受け、需要と供給のバランスが崩れ高騰
年内は 200 円台前半を維持
レモン・ライム・オレンジ・グレープフルーツ・バナナは円安の影響で高値 アメリカンチェリーは例年の倍



【サラダ油】おススメ度△

コロナ禍になって一番影響を受けた商品。
2019年にはサラダ油が 1斗缶当たり 3,150 円で買えたものが、既に 5,000 円まで値上がり。
唐揚げ 150 人前で油交換すると一人前当り、16.6 円の原価アップに。
油の汚れにくいメニュー構成や、コースメニューは揚げ物を外すという選択肢もあり。
大豆油を主原料としたものに切り替えがコストを抑えられるため、「日清スーパー長持ち油（大豆）」@5,045 円がおススメです。

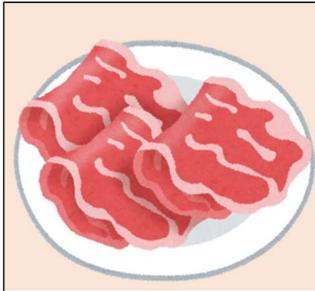
	2021年4月		2022年7月		今後
日清サラダ油 16.5kg	3,150円	→	5,045円（スーパー長持ち）	→	5,545円



【チーズ】おススメ度△

ヨーロッパでの生乳の搾乳量が減少し、生乳価格が約10%高騰。それに伴い、ナチュラルチーズの価格が年初より約18%の上昇。オセアニアも天候不順で生乳の生産量が減り、チーズの生産量が6%減少に。ナチュラルチーズの価格は年初に比べ16%の上昇。飼料価格や輸送費の高騰、円安の影響もあり今後も値上がりの見込み。

	2019年7月	2022年6月	2022年8月以降
ミックスシュレッドチーズ 1kg	790円	→ 954円	→ 5~20%値上見込
パルメザンパウダー 1kg	1,530円	→ 1,759円	→ 5~20%値上見込



【生ハム】おススメ度○

昨年イタリア国内にてAFC（アフリカ豚熱）の発生が確認された為、イタリア産豚肉製品の一時輸入停止処置が発令になり、プロシュート、サラミ、パンチェッタ等がストップしています。スペイン産やフランス産への切り替えが進むが、引き合いが強くなるため、約20%の値上りの見込み。イタリア産の生ハムの復活は今後少なくとも3年はかかると言われていた

	2019年7月	2022年6月	2022年8月
ハモンセラノー（マトネラブロック）1/4カット	3,880円	→ 3,880円	→ 4,355円

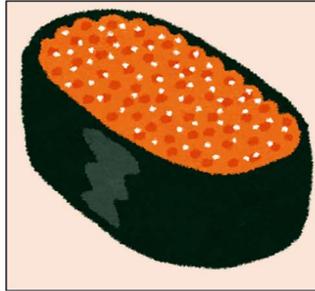


【フォアグラ】おススメ度×

ハンガリー、ブルガリアに続いてフランスでも鶏インフルエンザが発生し、一時輸入停止処置が発令。国内にフォアグラが入ってきていない為、在庫は枯渇の状態。

順調回復すれば、年末には輸入再開の見込みもあるが、状況は非常に不安定。

	2019年7月	2022年6月	2022年8月
フォアグラ オア	6,000円	→ 6,000円	→ 入荷なし
フォアグラ カナール	3,500円	→ 4,500円	→ 6,500~7,000円
フォアグラ カナール エスカロップ	4,000円	→ 5,000円	→ 8,000~8,500円



【イクラ】おススメ度△

ウクライナ侵攻により輸出イクラのシェアを持つロシア産の物が不安定な状況。国内の在庫も少なく、高値推移。大粒の生イクラはkg 10,000円を超えている状況。国産のイクラも北海道の赤潮の影響により壊滅的。

	2019年7月	2022年6月	2022年8月
冷凍 醤油イクラ（チャム）500g	3,300円	→ 4,853円	→ 5,500~6,500円
冷凍 醤油イクラ（マスコ）500g	2,450円	→ 3,160円	→ 4,000~5,000円



【ボタン海老】おススメ度△

ウクライナ侵攻によりロシア産のボタン海老が輸入困難。そもそも、冷凍のコスパの良いボタン海老はほぼロシア産の為、逃げ道がない状態です。

国産のボタン海老は、駿河湾 相模湾が産地の本ボタン海老。北海道が産地のボタン海老の2種に分かれる。

	2021年4月	2022年6月	2022年7月
ボタンエビ M 1kg	3,700円	→ 5,500円	→ 7,000~8,000円

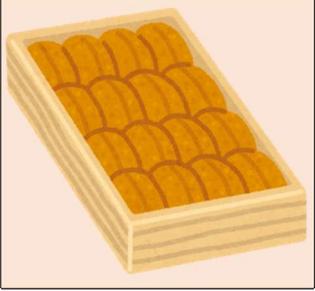


【カニ】おススメ度△

現在はカニの需要期ではないので、本来なら価格は安値のはずだが、高値推移。年末も昨年同様高値で推移の予測。

一方でロシア産のタラバ、ズワイはアメリカに輸出できず余っているとみられており、その場合は値下がりの予測もあり。

	2021年2月	2022年6月	今後
ロシア産タラバセクション2L	5,250円	→ 8,000円	→ 8,000~8,500円

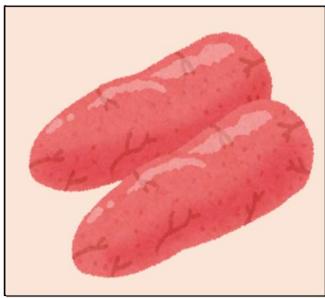


【ウニ】おススメ度△

国内は赤潮の影響で死滅。元に戻るまで3年はかかると言われていた。年末天井知らずで上がったが、1月末に一度下がったがまた値上り。

ロシアから商品の入荷がない為、このまま高値推移の予測。安価なチリ産も引き合いが強くと、値上げ傾向。

	2021年2月	2022年6月	今後
生ウニ 250g	4,000円	→ 6,800~9,800円（赤）	→ 5,000~8,000円（白）

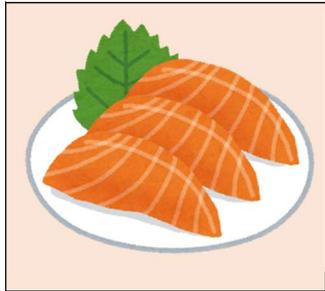


【タラ・タラコ】おススメ度△

ウクライナ侵攻により、ロシアからの輸入が減少してきており、タラ、タラコ、タラコを加工した明太子も今後値上げの状況になっております。

冷凍タラフィレが年始は kg 当り 1,100 円であったが今後 1,500 円まで上がる見込み。フィッシュアンドチップで 150g 使用すると、1 人前あたり 60 円のアップと影響大。

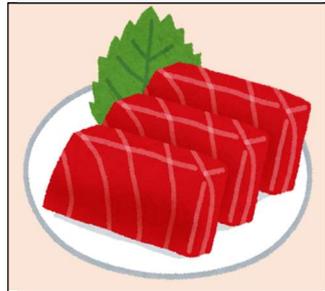
	2021 年 2 月	2022 年 6 月	今後
冷凍タラフィレ 1kg	1,100 円	→ 1,100 円	→ 1,300~1,600 円



【サーモン】おススメ度△

ウクライナ侵攻の影響で、ノルウェー産がロシア上空を飛行機が飛べなくなり、別ルートで日本に入ってくるため、入荷量が少なく、輸送コストも上昇。

	2021 年 2 月	2022 年 6 月	今後
ノルウェーサーモン 3 枚おろし 1kg	1,650 円	→ 3,200 円	→ 3,200 円



【マグロ】おススメ度△

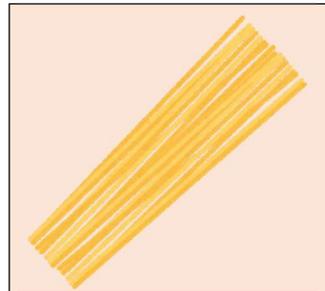
コロナ下でマグロ船の乗組員が集まらないことや、景気が回復しているヨーロッパやアメリカに買い負けて輸入量が減っていることから価格が上がっている。

クロマグロにおいては 9 割減。

メキシコ産の養殖マグロもメキシコから近いアメリカやヨーロッパに買われてしまっている。

本マグロがなくなるとキハダやバチに代替となり、まぐろが全体的に価格上昇。

	2019 年 7 月	2022 年 6 月	今後
バチマグロ赤身柵 (40 上) 1kg	1,980 円	→ 2,034 円	→ 2,800~3,300 円
キハダマグロ赤身柵 (20 上) 1kg	1,350 円	→ 1,667 円	→ 1,800~2,000 円



【小麦類 (麺、ピザ生地、パスタ)】おススメ度○

ウクライナ侵攻により小麦の世界第 3 位生産国 (ロシア)、世界第 7 位の生産国 (ウクライナ) の状況踏まえ値上げの状況。パンやパスタは今後 10%~15%の値上げ見込み。

スパゲティ 5 kg 1,500 円で 12.5%値上げになった場合、1 人前 100g 当り 3.75 円の値上げとなります。今後も、ウクライナ侵攻が続くとさらなる値上げの可能性はある予測です。

	2019 年 7 月	2022 年 6 月	今後
バリラスパゲッティ NO.5 1.7 mm 5 kg	1,400 円	→ 1,500 円	→ 10~20%値上見込



【醤油類 (たれ、うどんつゆ)】おススメ度○

大豆 (中国の輸入増加、バイオ燃料高騰)、小麦(前述参照)、鯉節(他国での漁獲量の拡大)、容器(原油高騰)、物流費(運転者不足、ガソリン高騰)等により醤油を主としたタレ、つゆ類が値上げになおります。

年初に醤油やめんつゆなどは今年 3 月に 4~10%の値上げになっています。

1.8L で 350 円の時、7%値上げになった場合、10ml 当たり 0.14 円の上昇。

メニュー一品当たりのインパクトは、小さいと考えられます。

	2019 年 7 月	2022 年 6 月	今後
ヤマサ徳用しょう油 1.8L	350 円	→ 409 円	→ 5~10%値上見込



【砂糖各種】おススメ度○

原油価格の高騰、物流費の高騰により 2021 年から 3 度値上げになっており、

7 月 11 日に 4 度目の値上げ (6%) を行う予定になっています。

理由としては精製糖の原材料になる粗糖 (サトウキビの搾汁を煮詰め結晶化したもの) の価格が上がっている事と、6 割が輸入の為円安の影響を受けているからです。

上白糖 1kg が 209 円とすると 1 キロ当たりの値上げは約 12.5 円。パティスリーなどはインパクトが大きいです、10g で 0.125 円の値上げは調理に使う分ではあまり影響はないかと思ひます。

	2019 年 7 月	2022 年 6 月	今後
上白糖 (スプーン印) 1 kg	188 円	→ 209 円	→ 10%値上見込



【オマールエビ】おススメ度△

活オマールは現在も入荷はあるが、ハイプレッシャーなど加工品は品薄で欠品状態。理由は昨年 5、6 月のカナダでの生産が少なく、ショートしてしまったため。

今年分の生産が 8 月以降に日本に入荷してくる予定。

順調にいけば量は安定。価格はカナダ現地価格の値上がりに加え、円安の影響で若干値上げ基調

	2021 年 4 月	2022 年 6 月	今後
冷凍生オマール 尾	1,250 円	→ 1,450 円	→ 8 月まで欠品、20%値上見込